

小学校は
エンピツの
匂い

東京学芸大学教育学部 附属
小金井小学校 同窓会

撫子の会

会報
7号

もくじ
副校長・至楽荘と一字荘……2、3
校長・たまには母校に……3
中野サンプラザで同窓会を開きました……4
同窓会総会懇親会に出席しました……4、6
腰山先生を偲んで……6、7
豊島同窓会のいろいろ……8



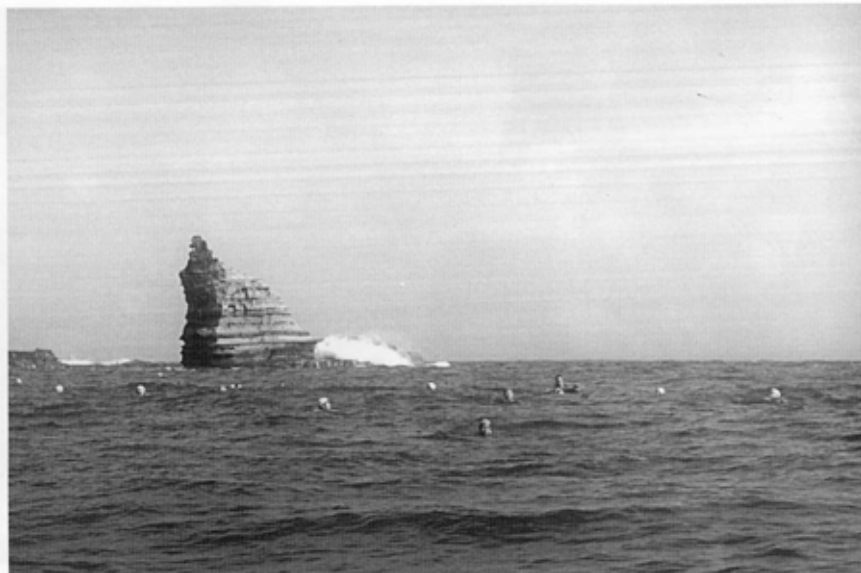
至楽荘と一字荘

副校長 小林 道正

至楽荘生活と一字荘生活は小金井小学校の教育の特色として一番にあげられます。卒業生がクラス会などを開くと、必ずと言っていいほど至楽荘と一字荘の話題が出てきます。そこで、現在の至楽荘生活と一字荘生活を紹介します。

至楽荘は、小高い丘に赤い屋根と白い壁がまぶしいほどの立派な二階建てです。鵜原湾の遠泳中によく見えます。現在は三年生と五・六年生が利用しています。三年生は梅雨の明けきらない七月上旬に二泊三日、初めての宿泊生活を行います。水泳はせずに、荘の使い方や集団生活の基礎を学びます。五・六年生は梅雨が開けたころに五泊六日ずつ、七十年の伝統を受け継いで、鵜原湾を一周する「遠泳」を行っています。水泳練習が中心ですが、地理や歴史の他に詩や俳句を作る学習もしています。また、磯の生き物や地層、星空の観察も行っています。これらの活動も七十年の歴史をしっかりと受け継いでいます。ただし、男子の赤ふんどしは、今年から全員締めなくてもよいことになりました。水泳パンツと赤ふんどしのどちらかを、児童が選択することになりました。

一字荘は、森の中に白い建物がひときわ目立ちます。夜になると茅野の美しい夜景が楽しめます。現在は四・五・六年生が利用しています。四年生は六月に三泊四日、五年生は五月に四泊五日、六年生は十月に四泊五日、八ヶ岳の登山と千代田湖での飯盒炊きを楽しんでいます。また、一字荘の周りの自然をいろいろなテーマをもって追究する総合の時間の活動もしています。



(右上) 鵜原湾遠泳風景
(右下) 水中展望塔近くでの磯遊び
(左下) 至楽荘と管理人ご夫婦 清水章次・千恵子さん
「お待ちしております」



至楽荘生活と一字荘生活は、昔と変わることなく
続いています。

♪利用のお問い合わせ

至楽荘(海)・一字荘(山)の御利用について

利用期間 至楽荘 三月～十一月

一字荘 五月～十月

利用料金

大人(中学生以上) 一泊二食 五千円
小人(小学生以下) 一泊二食 四千円

至楽荘

〒299-0052

千葉県勝浦市鶴原920

TEL 0470-76-2791

外房線鶴原駅より徒歩5分

一字荘

〒391-0013

長野県茅野市宮川鏡湖66316

TEL 0266-72-4177

中央線茅野駅よりタクシーで10分

これらの二つの荘を管理、運営しているのは「豊島修練会」です。本校の同窓会の会員は、「豊島修練会」の生涯会員でもあります。ですから至楽荘と一字荘を特別料金で利用することができます。クラス会などに是非利用してみてはいかがでしょうか。連絡先は東久留米市の成美教育文化会館0424(71)6600・田村です。

たまには母校に…

校長 大竹美登利

附属小金井小学校の校長も2期目、3年目を迎えました。最近では、小学校での生活が、私の生活の一部になってきました。

朝、玄関に立つて、登校する子どもたちへの挨拶をしています。時々、「先生、はい、来るときに見つけたよ」と、虫の卵、蟬の抜け殻、花や実を持ってきてくれます。そんな子どもたちに毎日接するのを楽しみにしています。附属中学校へ行った子どもたちが、時々、玄関近くでうろうろし、旧担任の先生を捜しています。旧担任と会話を交わすことで、新しい環境でのストレスを解消しようとしているのでしょうね。そんな風に接してくれる先生を持っている子どもたちを、少しうらやましくも思っています。

先日、遙か昔の卒業生から、学童疎開をしたときの思い出が新聞記事になったと、切り抜きを送っていただきました。どんな思い出でも、いつまでも、小学校の思い出は良いものなのだなど、感じた次第です。

最近の話題として、一月に放映されたフジテレビのトレンディドラマ「不機嫌なジーン」のロケ地となったこと、中山文部科学大臣が六月にスクールコミュニティ活動の一環として本校を視察に訪れ、子どもたちの意欲的で前向きな学習の姿にお褒めの言葉をいただいたことなどがありました。

たまには昔のことを思い出しつつ、また、現在の小学校の活躍のぞきに、あるいは、後輩の子どもたちに、同窓生の熱いエールを送りに、遊びにいらしてください。お待ちしております。



中野サンプラザで同窓会を開きました：

昭和四十一年小金井卒 川田 紀雄

小金井校舎は駅から少々距離があります。今回は豊島、追分メンバーの出席し易さを考えてちよいと都心に近付いてみようということになりました。

豊島か追分の母校の近くで、という案もありましたが、なかなかいい場所が見つかりません。それでは真ん中近くということで中野に決定したので。

結果というのは出てみれば、そんなこと始めからわかっているではないか、といわれることが多いのですが、今回もそうでしょうか。出席して頂いたメンバーそれぞれの当日の充実はあったと思いますが、御案内担当者としては中途半端な出席者数になってしまいました。それに少々の赤字。

反省点：「恩師」「母校」といった同窓会の原点にあるキーワードの持つ意味に対して大いに想いが足りませんでした。校舎を失ってしまった仲間の多い中、「小金井」を「母校」ととらえるのはなかなか難しいかもしれません。それならやはり「恩師」のいる場所こそが「母校」である。ということしかないではないか、と強く感じました。唯一の御出席であった小川格先生の廻りの人だから、亡くなった腰山先生の思い出を語るために出席してくれた同窓生の多さ。結果としては先生方に出席して頂くために行なった努力が全然足りませんでした。中野は母校の場所ではないし、加えて恩師の姿も少なく…。

今回は小金井校舎での開催としますが、「恩師」のたくさんさんの御来席を目標に準備を進めています。ちよつと発想が単純過ぎますか？恩師の廻りを取り囲む同窓生の輪、それこそが同窓会なのだという気持ちで。

今の子供達から「恩師」や「母校」、先生方から「聖職」という言葉が消えてしまわないうちに同窓会という活動の素晴らしさを急いで伝えなければなりません。いろいろな社会環境の中で今年から小金井校では、全校名簿は配付されなくなったそうです。卒業に際しても、無断で同窓会が名簿を受取ることも出来なくなりました。

至楽荘の赤フンも風前の灯、大学世代の卒業生が引継いでいた「助手」もプロの監視員にとって変わるでしょう。同窓会って民主主義の抵抗勢力なんではないでしょうか？そんなことない。と信じているのですが…。

十一月二三日同窓会総会懇親会に出席しました。

昭和三年豊島卒 村山 和彦

同級生は田中勇君だけでした。実は妙な縁で出席することになりました。

前々日の十一月二〇日に小金井小学校に行きました。ロンドン在住の息子が転勤で帰国することになり、孫の編入が出来るかどうか問い合わせにうかがいました。小林副校長先生から週末に同窓会があるよとお話を頂いたので、それではと出席しました。何年前か前池袋であったとき以来です。詳細は幹事の西山さんと言うことでメールを差し上げたら、会報の編集担当幹事でいらつしゃったと言うわけです。私は実は卒業していません。学童疎開で上ノ山に行っていました。東京爆撃も激しくなつて、家族は



P4 平成十五年十一月二十二日 中野サンプラザ

P5 (右) 小林道正副校長ごあいさつ
題字は藤田唯夫会長

P5 (左) 中央が藤田会長

らば何でも千葉に参りました。一年生から四年生までの撫子っ子です。でも付属と学童疎開、それと敗戦は私の人格形成に大きな方向をつけたと思っています。

一年生の時に最初に教わったのは、「電車通学の時、濡れた傘は自分の足の間に置きなさい。」でした。半ズボンの膝に濡れた傘の感触は未だに健在です。大人として行動している自覚と誇りのようなものを感じました。開戦を知らせる朝礼には、凍てついた師範の校庭で師範学校生徒と一緒に並びました。ドリットルの東京爆撃は校庭の滑り台の上から見ました。滑り台の上から国会議事堂が見えていました。国会議事堂の手前を高射砲の煙の間を飛び続ける爆撃機を眺めていたら、先生が走ってきて教室に入りなさいと言われて皆で校舎に逃げ込みました。

消しゴムを養の目に切って飛ばすことが流行ったことがあります。授業中に指されて立っている前席の友人の頭の禿げをねらって飛ばしました。後ろの子達には受けました。しかし授業が終わってから皆に取り囲われました。「卑怯だ。やりかえすことが出来ない状況の時に後ろから悪戯をしかけた。」と言う。なんだよ皆に受けていたじゃないか、とも思いましたが、あの恥ずかしさは、その後私に卑怯な振る舞いをさせないようになりました。同級生達が師でした。それで勤め人の間は相当損をしている。

ロンドンの幼稚園の孫が喧嘩しているのを見ると、「You are baby」が最大の侮蔑の言葉です。悪さをした時に私が「You are baby」と言うと、「Not baby! You are baby」と言返してくる。祖父に「You are baby」もないものですが、紳士たれ、なる教育は付属の教育に通じるものを感じています。女の子は守らないと、幼稚園の癖に女子に傘をさしかけ、歩道の道路側を歩いています。

上ノ山では月岡ホテルのお母さんは本当に皆のお母さんでした。月岡神社までの雪中裸足マラソンをやった。半べそで帰ってくる子供達の足を自分も泣きながら拭いてくれました。掃除で空になっている湯船に急いで温泉を入れて皆を入れてくださいました。皆で湯船の底に鱒の缶詰状態に横になりました。暖かくなったら、潜水艦だと潜望鏡を出して遊びました。

上ノ山では軽いじめじめにあつていたようです。食事の時の器は親が持ち込んだものを使用していました。ですから皆違うんです。その中に今考えれば高級品の青磁なんですよ、薄緑色の井がありました。便器色と称して皆よけていきましたが何時でも私のところに回ってきていました。父伊之助が一年上級の担任指導と一緒に来ていましたので、両親から離れて来ている皆からみれば羨ましかったのかも知れません。

「撫子の会会報五号」二一年山之内秀一郎さんが裏口入学のことを書いていらつしやいますが、多分父も担任でしたからそれに加担していたと思います。後年父の述懐するところでは、疎開の時は食料の確保をするために有力者父兄に頼み込んで食料を調達したそうです。山之内さんのお父様にも頼んだことでしょうか。ところが真面目な一部父兄から、闇で食料を調達するとは非国民であるとか非難を浴びたそうです。そうだと、若い後輩には「闇」の意味が分からないでしょうね。ブラックマーケットの意味で、正規配給ルート以外の非正規ルートから食料等を調達することです。

子供を飢えさせても戦争に勝てるわけではないのに、とこぼしてました。

伊之助の担任クラスの方がご覧になるかも知れませんので、少し父のことも記します。父は大正リベ



ラリストで、「担任した学童から東大に進学した者は沢山居たけれど、陸軍士官学校、海軍兵学校に進んだ者は一人も居ない。子供を戦場に誘導したと悔やんだ先生が多かった中で、私は幸せだ。」と言っていました。本当に一人も居なかったかどうか分かりませんが、時勢が大将になることが出世である時代にしてはユニークな教育をしていたようです。どうも反戦教育ではなく、阿世を嫌った教育であったようです。戦後、平和国家日本、民主主義になってから、防衛大学の一期生になった方が居ます。

全国公立小学校長会会長をやっていたとき、帰宅して考え込んでいることがありました。

珍しいことだったので聞いてみました。校長、教頭の管理職手当ての制度を作ろうと予算折衝をしていて、目白の田中角栄大蔵大臣宅に陳情に行きました。その場で半分に値切られました。制度が出来さえすれば後はなんとかなると、仰るとおりにと妥協決着したそうです。その時、角栄大臣は新潟から選挙民が来ているから一寸挨拶してきますと出て行ったそうです。その際、前のチャックを下げながら出ていきました。

父は、ちゃんと教育を受けていない者はしようがないと見ていたそうですが、隣室から選挙民が「大臣よ、新潟の畑で無いんだから前のチャックぐらいつけて」という声が聞こえて、角栄は「おう、おう。」と言いながら直していたそうです。

あの選挙民は、新潟に帰って、「おれは大臣に注意してやった。」と自慢するだろう。その選挙民に与える効果は莫大なものがある。果たして自分は永年教育をしていたが、子供の前でそこまでの努力をしていただろうか、と考え込んでいました。結局自分がやった教育は、隣のクラスの子供に担任のクラスの子供が喧嘩で負けても腹が立つような状況でやった

教育が、教育技術は貧しくても一番効果があった。教育とはそんなものかも知れない。と話していました。

担任のクラスの方々に、父の遺言を添えさせてください。

「他人のお世話が出来るチャンスがあれば、やっておくことだ。人生はどこかで繋がっている。」これは脳梗塞で倒れて危篤状態を脱した時に言いました。長男が大学三年になるときで、正月に、「今年は就職を何とかしなければ。」と言ったら、「大丈夫だよ。お前は他人のお世話を良くしている。誰かがちゃんとしてくれる。」の後に言った言葉です。

会話が出来るようになってこの話をしたら、覚えていませんでしたが、「自分でもそう思っている。本当に死ぬ時に何を言うか分からないから、これを遺言にしておこう。」ということになりました。

平成十一年一月二三日に九三歳で没しました。お寒いところ、多くの卒業生の方々、四宮先生のご家族の方々始め付属の関係の方々に弔問を頂きました。ありがとうございました。

田中勇君とは九時まで中野のうなぎやで、旧交を温めました。晩飯はいらないと電話するのを忘れたので家内に大変怒られた。

腰山先生を偲んで… 土曜サッカーのことなど

昭和四十六年小金井卒 池田 健

前号で腰山太刀勇先生の訃報を知り、いいようなない気持ちにとらわれました。私は多分先生の随分後期の教え子です。当時先生は教頭先生でいらした

ため直接授業を教わった経験はありません。しかし、当時の小金井小にはサッカー部とは別に土曜サッカーという特殊な組織が存在しており、先生はその総監督的役割を担っておられました。今はもうない土のグラウンドの懐かしい匂いとともに当時を回顧してみようと思います。

土曜サッカーがいつごろ始まったかはわかりません。しかし、私達の世代の十年前後の小金井小の元スポーツ少年はこの名を聞いただけで様々な思いが蘇るはずで、今のようなチームになる遙か前からこんな組織があったのは腰山先生の御慧眼の象徴でしょう。我々の頃は小学校4年になると体育の授業で1クラス4～5名(当時4クラスでしたから学年で20名弱)のメンバーが選ばれ土曜サッカーの一員となります。私も運良く選ばれ土曜サッカーに入ったまでは良かったものの、当初はその層の厚さにとまどうばかりでした。何しろ1軍から4軍までが上位組織としてあり我々は試合をすることの許されない練習部隊という最下層に組み入れたに過ぎないのです。

6年生は神様のような存在でした。私が4年の時1軍のキャプテンは岩間さんという方でした。さて5年になると何とか試合に出場できるようになりました。当時は体育担当の大場晃先生が監督としてご指導してくださっており、1軍はなでしこサッカークラブという名前が固定していましたが5・6年主体の2軍チームには決まった名称がありません。そこで大場先生の名前の尾を分解して日光クラブと命名し試合前は「アキラ・アキラ」と掛け声をかけながら皆でランニングをするという誠に安直な、しかしそれだけ先生が慕われていた証拠だった風景が脳裏にあります。最も重要な大会は、読売ランドで行われていた春と夏の都内の小学生大会(現在は全日

本の大会で、日本代表チームのメンバーも輩出しています)でした。

その頃確か同学年の平野立一君と一緒に腰山先生と3人で帰った時「来年はおまえらに頑張ってもらわなにかあいかんぞ」と言われた記憶があります。何しろ一つ上の学年ではこれも同級生の小林晃君の兄上をエースとして同大会でベスト4という成績を残していたのですからこれは大変なことになったと思っただけでした。当時私はゴールキーパーをしていました。その大会に唯一小金井小から女子チームが出場しました。しかし、キーパーだけが足りず私が黒一点として駆り出され、何と男子チームを打ち破ったのです。試合後6年生のお姉さま方(?)に胴上げされましたのはこれが最初で最後ですが何と幸福な体験だったことでしょう。また、試合後読売ランドで遊ぶのも楽しみでした。

そこでのおぼけ屋敷でのエピソードも忘れられません。お決まりのコースをたどった後、出口近くで「お岩さん」が通り道をふさいで我々を再三邪魔するのです。頭に来た私はスパイクなどが入った道具を滅茶苦茶に振り回してお岩さんに対抗しました。すると何たることかお岩さんの首が取れ中から大学生ぐらいの男の顔があらわれました。汗まみれの男は激怒しており小脇にかかえられた私は裏の方に連れて行かれ「イテーじゃないか!いいかげんにしろ」と怒鳴られました。内心「お前がどかないからだろ」と言い返したかっただけですが、おぼけのはずのお岩さんが人間でそれも本気で怒っているという事実が呑み込めず沈黙を守って「今度やったらただじゃおかせえぞ」という捨てゼリフとともに無罪放免になったと記憶しています。

結局6年になり我々のチームは3位、他にもアジアユース大会の前座で現天皇皇后両陛下のご観戦の

もと国立競技場で試合をするという幸運にも恵まれました。しかし、それらはいわば余録ともいえるべきこと。本質は後ろ姿で我々を教育してくれた腰山先生、実際にグラウンドで向き合ってくれた大場先生(他に練習台になってくれた長谷先生や学生時代全日本レベルのご活躍をされていたと聞く松沢卓君のお父上の強烈なシュートも忘れられません)にサッカーを通じて大切な何かを教わったことこそ本質だったと今にして思えます。

私は大変な悪ガキでしたから、サッカーだけではあきたらず何人かの女子をいじめてしまったこともあり遅すぎる謝罪をします。本当にすみませんでした。そして2年から6年まで担任だった滝沢達郎先生もすでにご逝去されたためなのか我々1組のクラス会は開かれていませんが皆ご活躍のことと思えます。

最後に覚えている限り同学年で土曜サッカーの仲間だった人たちの名前を列挙してセピア色の記憶を閉じることとします。杉澤直樹君、小林晃君、寺内正典君、松沢卓君、平野立一君、三塩達也君、菊池徳雄君、福田靖君、北川昇君、中村潤君、芥川進君、浅川出王君、岩本佳久君、原口寿章君。(順不同)光陰矢のごとし。そろそろ腹部のたるみと生活習慣病が気になる頃だけとお互いに頑張りました。



昭和一九年卒 豊島同窓会のいろいろ

昭和一九年豊島卒撫子の会会長 藤田 暉夫

「小学校は削りたてのエンピツの匂い」いつまでも忘れることのない小学校の仲間達。

撫子の会・第三回総会（平成十四年五月十八日、小金井小学校での開催）にて、撫子の会会長をお受けいたしました。藤田暉夫（昭和一九年豊島卒）でございます。会長任期三年間、本日開催第五回総会によって、任期完了となります。

本日、平成十七年十一月開催の第五回総会にて、新会長・他の理事交替の運びとなりますが、次期の方々は、若々しいエネルギーあふれる強靱な力をお持ちの新役員と存じます。どうぞ、同窓会各位の力を以って、特段のご後援ご指導を下さいますよう、衷心よりお願い申し上げます。

さて、書き始めの言葉にありますように、実はこんなに同窓会を重ねている事例あり、をもって、私の退任の言葉として述べさせていただきます。

場所は、かの有名な日本橋室町「蕎麦の砂場」に二十年以上、毎年偶数月の一九日に、昭和一九年卒の方々が、出欠席の届がなく、盛会を続けている私達です。一年に六回も顔を合せている、それも超長い期間、小生とて五十歳台の頃からです。日本橋室町。そば砂場としても、一つの歴史と言っています。

初めは、仲居さん達の休憩室、二階の奥であり、二つは机・椅子で約十名位入れる部屋、今は私達のために改装となつて、立派な扉付きの部屋になりました。年が明けると、偶数月の予定日予約です。もう相当な年月ですから、どの位の人数が集まったか

忘れる程で毎会十名位の面々で、十二月忘年会は二五名の出席で、終りの時を心配した折も有りました。

「おう集ったかこ常連」とか「なつかしいなア」の連発、呼び名は、男性は呼び捨てかニックネーム、さすが女性には、さんかちゃん（小学校時代の苗字かな）。話題は、大した変化もなく、小学校の頃あの辺は寒かった、藤棚の下の涼しさ、第二の運動場の風景、柔道の寒稽古、ダレが強かったやら、昔の思い出が主力。当時はPTAなんて無論なく、その代り母の会の偉大な力に支えられていたことです。

成美荘での林間授業、農作業、兵隊ゴツコ。至楽荘では波の荒い鶴原海岸での遠泳。一字荘での駒ヶ岳早足登山やら温泉の湯、ともかく話題はつきることとはなく、まるで、いい年の連中が小学生に戻った有様、この同窓会がもとで、茅野に移った二字荘、至楽荘隣の鶴原館へ思いの歩み、成美荘そばの成美会館での集い、還暦には京都での二泊三日のワイワイガヤガヤの旅になりました。

昨年七月には、卒業六十周年記念会を新宿で開催四十七名の出席、地方から馳せ参じてくれた何人もの仲間、あれやこれやが頭の中を過ぎることばかり、ここに書いてお示し出来ないこと山のようです。

然し、諸行無常も除けられず、鬼籍入りした友人もあって、其の折追悼の言葉、合掌に涙となります。こんなにも永く、皆なよく集ってくれるもの、が同窓会各位の話題になると思いますが、これが冒頭に書きました、いつまでも忘れることのない小学校の仲間達であるからと、歴史の刻みの重さを胸に描いている私達です。

以上の次第が、末永く幸せであることを心から願って、小生の結びとします。三年間のご指導に感謝申し上げます。ありがとうございました。

編集後記

編集担当・金子修也

この号は懐かしい施設案内を特集しました。

鶴原は夏とかざらず春秋も楽しめます。近くの海洋博物館や水中展望塔を訪ねてもよく、脚つたいの散歩も素晴らしい景色です。そして管理人ご夫妻のおもてなしがうれしい。お昼を頼めばオフロの味のカレーライス。夕食にサイドオーダーすればトレトレのお刺身、コーリコリのあわび。東京からわずか一時間。遊ぶもよし思索もよし。海岸のよしず張りのもと、ビール片手に海風に吹かれながらの読書もいい。去る夏、一人逗留をしてお知らせです。

この号も、思い出のお話ほかの原稿をお寄せくださり、ありがとうございます。今後もノンジャンルでのご寄稿、大歓迎です。お待ちしております。

「撫子の会」会報・第七号

発行 平成十七年十月

この号の編集担当

金子 修也（昭和二十五年年追分卒）

西山マサ子（昭和三十二年追分卒）

印刷 山信印刷（山佐福栄・昭和二十八年追分卒）

投稿・寄稿問合せ先

西山マサ子 電話・ファクス 03-3815-9619

メール kmyt@icn-carv.ne.jp

同窓会事務局

東京学芸大学教育学部附属小金井小学校内

住所 〒184-8501

東京小金井市貫井北町4-1-1

電話 042-329-7823 ファクス 042-329-7826

撫子の会郵便振替口座

番号 00100-8-709121

加入者名 撫子の会